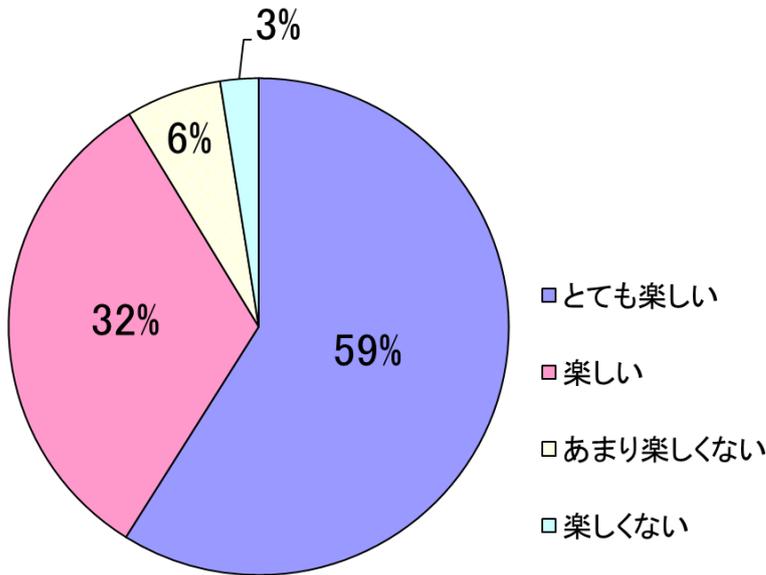


1. 学校生活は楽しいですか。



1. 「学校生活は楽しいですか」

【令和6年度10月】

とても楽しい 59%
楽しい 32%

【令和5年度10月】

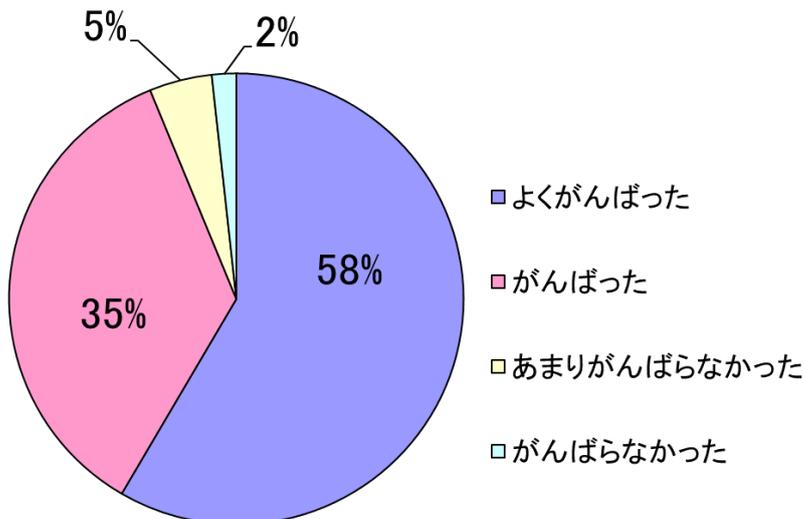
楽しい 65%
どちらかと言えば楽しい 29%

91%
3% down
94%

「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童の合計は91%だった。昨年度より3%減少してはいるものの、引き続き90%以上の児童が学校生活を「楽しい」と回答していることは喜ばしいことである。

児童が「学校は楽しいところ」と感じる要素は、学習の場面であったり、行事の場面であったり、児童それぞれであると思われるが、どのような場面においても「他者との関わり」が大きく影響すると考えられる。新年度を迎えて、新しい環境の中で新しい友達や担任と出会い、さまざまな活動を共にすることを通して、「学校に行くとなんか一緒に楽しいことができる」と感じる場面が増えることを目指していく。また、児童が困っていたらすぐに寄り添い、その不安を取り除いて、児童が安心して登校することができるように、学校全体で児童一人一人と向き合う体制づくりに努めていく。

2. 当番や係の仕事をがんばりましたか。



2. 「当番や係の仕事を頑張りましたか」

【令和6年度10月】

よくがんばった 58%
がんばった 35%

【令和5年度10月】

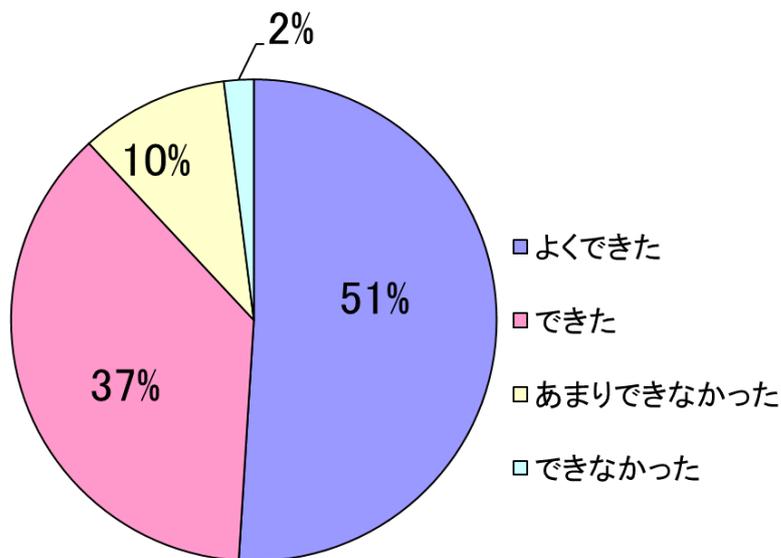
よくがんばった 64%
がんばった 33%

93%
4% down
97%

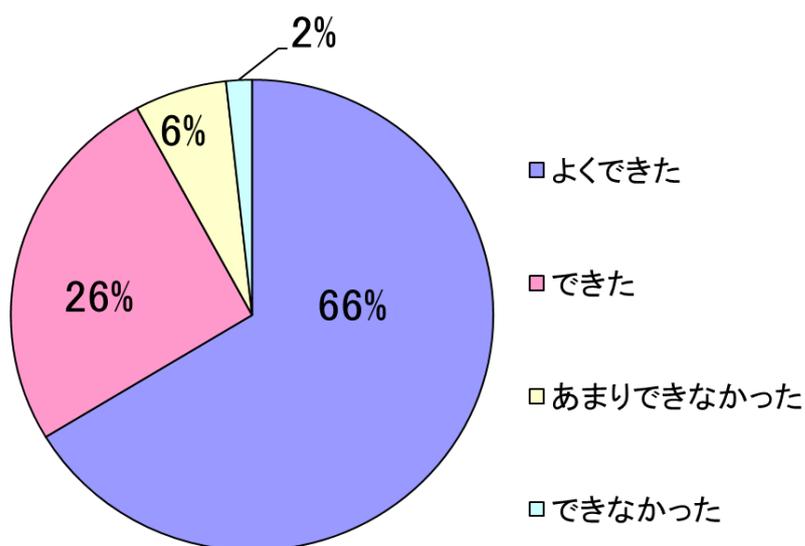
「よくがんばった」「がんばった」と回答した児童の合計は93%で、昨年度より4%の減少となったが、引き続き90%以上の児童が肯定的な回答をしており、多くの児童が「自分はがんばった」と感じていることを読み取ることができる。

低学年では、学級内の当番活動や係活動、学年での実行委員活動など、比較的小さな集団における活動が主となる。この小集団での活動に主体的に取り組む経験は、高学年になった際の委員会活動や各種行事などにおいて、学校全体を先導する場面に必ず繋がる。低学年時に、これらの活動で「がんばった」という満足感や達成感を味わうことができるような指導や支援をしていく必要がある。引き続き、児童の自主性や創造性を育むために、学年・学級における各種活動を充実させ、自分の役割を果たす姿勢を引き出すことができるように工夫していきたい。

3. 自分の健康に気を付けて過ごすことができましたか。



4. 体育の授業や休み時間には、楽しくたくさん体を動かすことができましたか。



3. 「自分の健康に気を付けて過ごすことができましたか。」

【令和6年度10月】

よくできた 51%
できた 37% } 88%

【令和5年度10月】

よくできた 53%
できた 38% } 91%

3% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は88%で、昨年度より3%の減少となったものの、引き続き多くの児童が自分の健康を意識しながら生活できたと感じていることが読み取れる。

コロナウイルスへの特別な対応はなくなり、以前の生活に戻ったとはいえ、さまざまな病気に対する予防の意識は常にもっておく必要がある。低学年のうちからその意識を高くもち、できることを実践していくことはとても大切なことである。手洗いやうがいのほかにも、バランスのとれた食事や適度な運動、十分な睡眠や休息など、健康維持に必要なことに進んで取り組めるように、学習場面に取り入れたり、生活指導で取り扱ったりして、児童の意識を高める工夫をしていく。

4. 「体育の授業や休み時間には、楽しくたくさん体を動かすことができましたか」

【令和6年度10月】

よくできた 66%
できた 26% } 92%

【令和5年度10月】

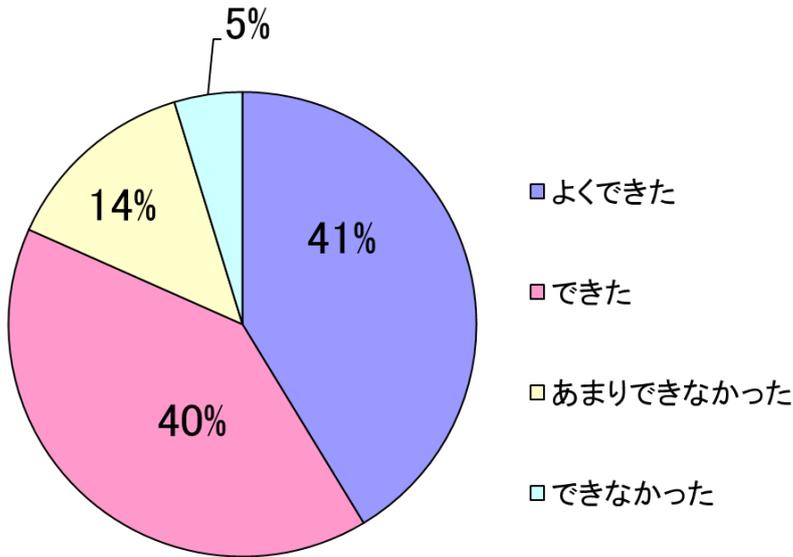
よくできた 71%
できた 23% } 94%

2% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は92%で、昨年度から2%減少したものの、ほぼ同じ割合であった。90%以上の児童が楽しみながら体を動かすことができているのは、非常に高い割合といえることができる。

体育の授業において、各学年で活動の場や指導内容を研究・工夫することにより、児童の体育学習がより充実したものになることを目指している。その結果、児童が運動に親しみ、体を動かすことを「楽しい」と感じる場面が増えているのではないかと考えられる。中休みには校庭いっぱい児童が走り回り、友達と一緒に外遊びを楽しむ様子を毎日見ることができる。夏は暑さによって屋外での活動が制限されてしまうことがあるが、熱中症等を予防しつつ、引き続きこの状況を維持し、さらに向上させることができるように、体育学習の質の向上を目指した研究・研修に努める。また、学習以外でも児童が運動に親しめるように、環境整備に努めていく。

5. いろいろな人にあいさつをすることができましたか。



5. 「いろいろな人にあいさつをすることができましたか」

【令和6年度10月】

よくできた	41%	81%
できた	40%	

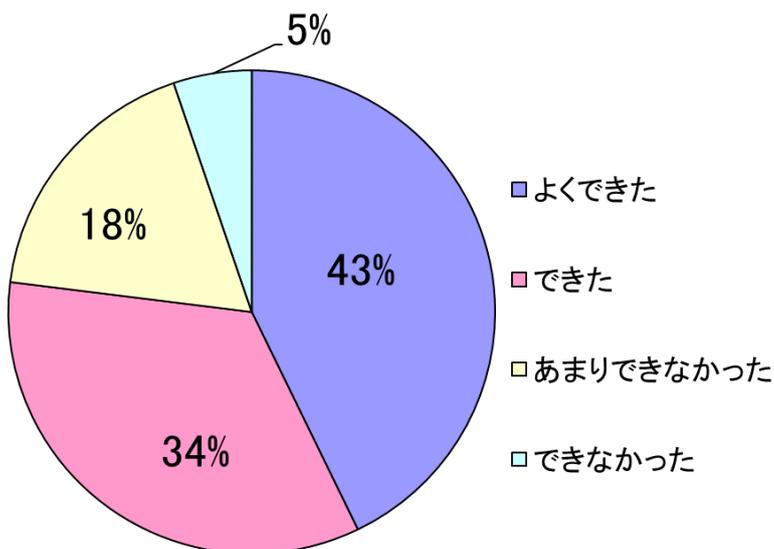
【令和5年度10月】

よくできた	41%	81%
できた	40%	

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は81%で、昨年度と同じ割合となった。

低学年児童は、朝、学校に入ってくると「おはようございます」と元気よく挨拶をすることができる児童が多く見られる。自分からでなくても、教職員から挨拶をすると、元気よく返せる子も多い。低学年時に挨拶を交わす意義を知り、その心地よさを感じることは、大切な経験である。この経験を繰り返すことで、対人関係において自分を表現したり、心を開いたりすることにも繋がると考える。教職員が挨拶を励行することはもちろん、学校全体が進んで挨拶をすることができるような取り組みを模索していく。自立活動支援チームを中心に、これまで行ってきた「あいさつ運動」のほかにも、挨拶を交わすことがより自然な姿となるような活動や呼びかけを考えていきたい。

6. 困った時は、先生や友達に話すことができましたか。



6. 「困った時は、先生や友達に話すことができましたか。」

【令和6年度10月】

よくできた	43%	77%
できた	34%	

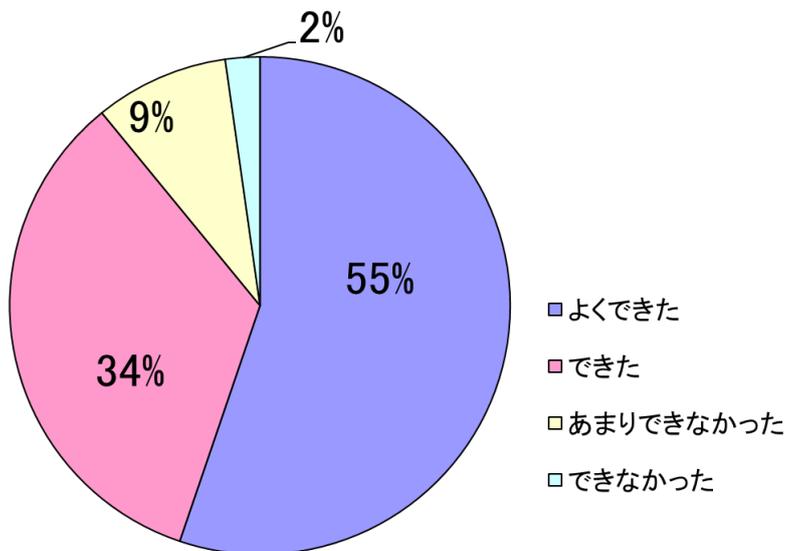
【令和5年度10月】

よくできた	49%	80%
できた	31%	

「よくできる」「できる」と回答した児童の合計は77%で、昨年度より3%減少した。

低学年の時期から、「困った時は誰かに相談すればよい」という意識をもつことはとても大きな意味がある。学年が上がるにつれ、児童の困りや悩みはより複雑になっていく。「誰かに相談すれば解決できる」という経験を低学年から多く積むことで、何か困りや悩みが生じたとしても、自分から解決に向かうための第一歩を踏み出すことができるようになると思う。そのために、共生*共育プログラムや「SOSの出し方・受け止め方教育」などを活用して、抵抗なく他者に思いを伝えることができるように支援していく。また、教職員は常に児童の様子を観察し、ちょっとした変化も見逃さないように配慮する。教職員側から積極的に児童へ声をかけることで、児童にとって「相談できる相手」となれるように努めていく。

7. 学校やクラスの約束を守ることができましたか。



7. 「学校やクラスの約束を守ることができましたか。」

【令和6年度10月】

よくできた 55%
 できた 34%
 89%

【令和5年度10月】

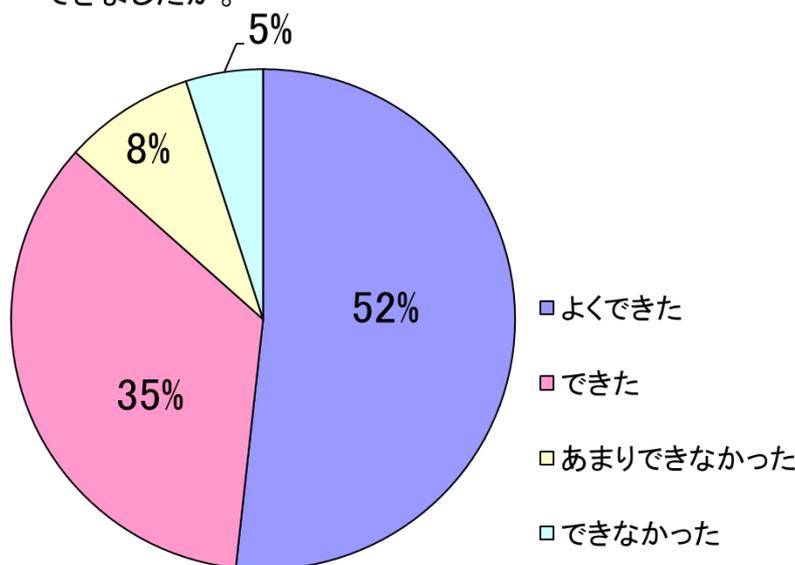
よくできた 60%
 できた 34%
 94%

5% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は89%で、昨年度より5%減少したものの、約9割の児童が「守ることができた」と感じていることは良い結果であると捉えることができる。

学校全体としては「柿生小スタンダード」をもとに全校共通でさまざまな約束を設け、教職員も共通理解のもとで指導している。約束を遵守する心を育てることは、低学年時は特に重要である。単に守ることを押し付けるのではなく、なぜ守る必要があるのか、守るとどんな良いことがあるのか、守らないとどういうことが起こるのか、生活指導の場面や道徳の学習などを通して学ぶことができるような指導の工夫をしていく必要がある。児童支援チームや自立活動支援チームを中心に、児童が違和感なく約束を受け入れ、それを守って生活することができるような工夫を考えていく。

8. 困っている友達がいたら、助けてあげることができましたか。



8. 「困っている友達がいたら、助けてあげることができましたか。」

【令和6年度10月】

よくできた 52%
 できた 35%
 87%

【令和5年度10月】

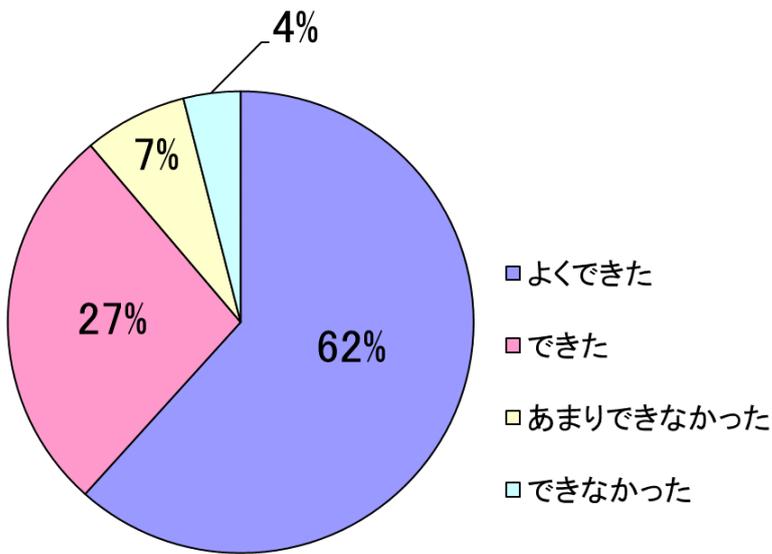
よくできた 54%
 できた 36%
 90%

3% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は87%で、昨年度より3%減少しているもののほぼ同じ割合と言える。多くの児童が「困っている友達を助けることができた」と感じていることが読み取れる。

低学年においては、困ったことがあると担任や保護者に相談する児童が多いが、自分自身で解決することは難しい場面も多いと思われる。自分の周りに、悩んだり困ったりしている友達がいたら、まずは「どうしたの」「大丈夫」など声をかけることができる気持ちを育てていきたい。日常のさまざまな場面においてそのような指導にあたりると共に、道徳科の学習や共生*共育プログラムの活用を図るとともに、児童支援部会を中心に月目標として掲げるなど、全校的な取り組みをしていきたい。

9. 授業では、あきらめずに最後までがんばることができましたか。



9. 「授業では、あきらめずに最後までがんばることができましたか。」

【令和6年度10月】

よくできた	62%	} 89%	←	5% down
できた	27%			

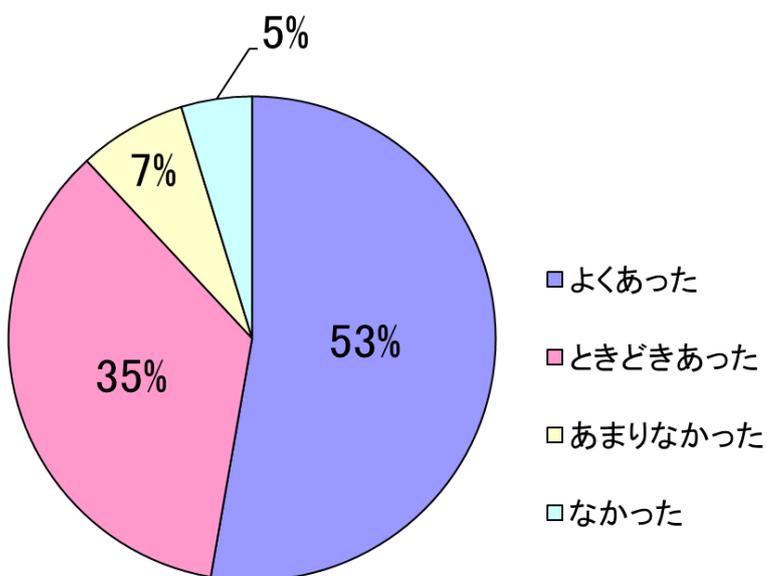
【令和5年度10月】

よくできた	69%	} 94%	←
できた	25%		

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は89%で、昨年度より5%減少したものの、約9割の児童が「最後までがんばった」と感じていることが読み取れる。

新しい学習内容と出会った時に、「できない」「わからない」ではなく、「やってみよう」「どうすればできるようになるかな」という思いをもって取り組む経験は、低学年期においてとても重要なことである。この経験を重ねることで、高学年になるにつれて学習内容が難しくなっていくとしても、前向きな姿勢で学習に取り組むことができるようになることを考える。そのためには、教師が児童の理解度を把握し、個に適した指導・支援をしていく必要がある。学習においてつまずいたり困ったりしている児童に対して、どのような指導・支援が適切であるかを常に模索し、学習計画を立てることに努めていく。

10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることができましたか。



10. 「授業中、『わかった』『できた』という気持ちになることができましたか。」

【令和6年度10月】

よくあった	53%	} 88%	←	4% down
時々あった	35%			

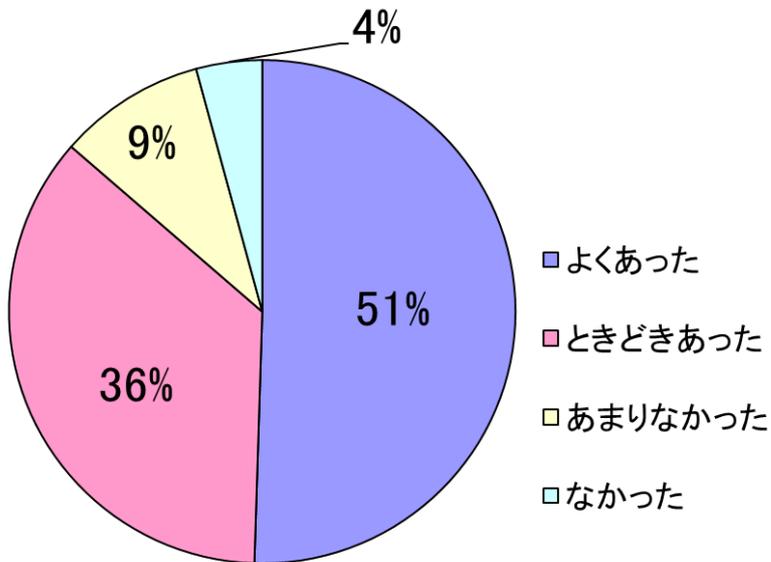
【令和5年度10月】

よくある	62%	} 92%	←
時々ある	30%		

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は88%で、昨年度より4%減少しているものの、約9割の児童が「わかった」「できた」と感じる経験をしているということがわかる。

「わかった」「できた」という気持ちは、新しいことに取り組んだり、挑戦したりすることで生まれる気持ちである。児童が学習の中で、「やってみよう」「挑戦しよう」という気持ちをもつことができるように、教師が児童に提示する学習課題は、常に魅力的なものである必要がある。今後も各学年において学習内容について共通理解を図り、児童が前向きに学習に取り組むことができるような学習計画を検討・研修していく。また、授業力向上部会においても、校内研究や各種研修を通して、授業の質の向上を目指していく。

11. 友達に、「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことがありますか。



11. 友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことがありますか。

【令和6年度10月】

よくあった	51%	87%
時々あった	36%	

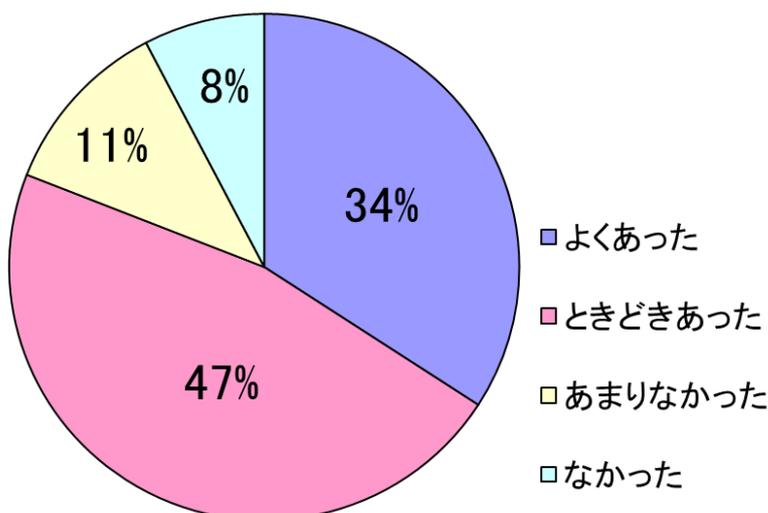
【令和5年度10月】

よくある	53%	89%
時々ある	36%	

「よくあった」「時々あった」と回答した児童の合計は87%で、昨年度より2%減少したものの、昨年度とほぼ同じ割合となった。

低学年においては、発達段階として自己中心的な思考が強い傾向にある。そのため、友達のがんばりや成長に対して興味・関心がそれほど高くはないと言える。そのような中でも、友達が何かできるようになったり、努力したりする姿に対して、肯定的な言葉を投げかけたり、その様子に気付いたりすることができる気持ちを育てていきたい。そのためには、あらゆる場面において、児童の努力や伸びをまず教師が認め、肯定していくことに努める。その肯定的な雰囲気が、児童相互の認め合いにつながると考える。

12. 先生や友達に、「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと褒められたり、認められたりすることがありましたか。



12. 先生や友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などほめられたり、認められたりすることがありましたか。

【令和6年度10月】

よくあった	34%	81%
時々あった	47%	

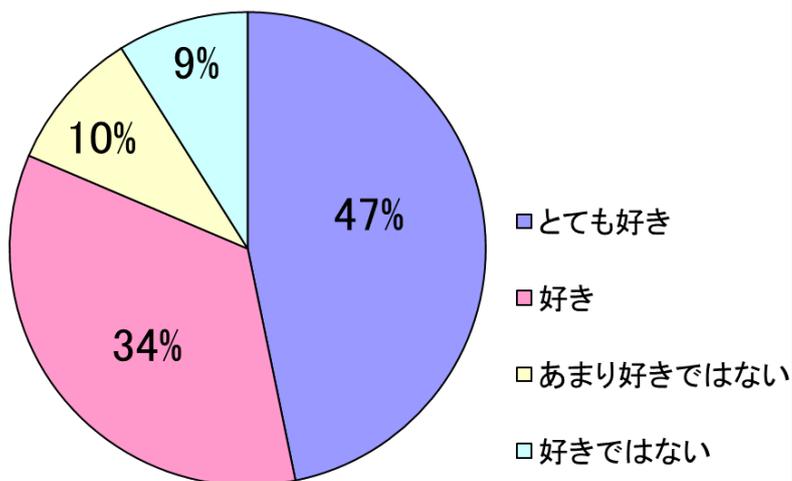
【令和5年度10月】

よくある	47%	87%
時々ある	40%	

「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は87%で、昨年度より6%減少した。

児童のみならず、人は誰しも褒められると前向きな気持ちになり、その気持ちは他の活動や取り組みへのエネルギーとなる。特に低学年においては、この傾向が強い。児童は褒められることで「やってよかった」という気持ちになり、「次もがんばろう」という意欲をもつことにつながる。そしてこれは、教育理念に掲げている「自己肯定感」にも直結するものとする。教師は、児童一人一人の取り組みや成長の様子をしっかり捉え、常に肯定的な言葉をかけることが必要である。そうすることで、児童が何事にも前向きに、進んで取り組むことができる学校を目指していく。

13. あなたは、自分のことが好きですか。



13. あなたは、自分のことが好きですか。

【令和6年度10月】

とても好き 47%

好き 34%

【令和5年度10月】

とても好き 52%

好き 30%

81%
1% down

「とても好き」「好き」と回答した児童の合計は81%で、昨年度より1%減少したものの、ほぼ同じ割合となった。

前項「褒められたり認められたりした」と関連する部分が多いが、低学年においては、他者から褒められることは、「これでいいんだ」という前向きな気持ちにつながる傾向が強い。これが積み重なることで、自分のよいところや好きなところに気付き、これが「自己肯定感」へとつながるものとする。今後も学校全体として、児童に対して肯定的な言葉をかけることを常に意識し、児童がのびのびと学校生活を送ることができるように努めていく。また、児童が困ったり悩んだりしている際にも、教師が寄り添って、「自分はこれでいいんだ」「自分にはこんな良いところがあるんだ」と、児童が前向きな気持ちになれるように努めていく。